

トリノ水の貯蔵安定性試験

1. 調査目的 製造から3ヶ月後の トリノ水の殺菌効果を確認する。
2. 使用菌株 大腸菌（臨床分離薬剤耐性菌株）
黄色ブドウ球菌（MRSA 菌株）
バチルス属菌（自然界の菌株）
サルモネラ菌（SE 菌株）
緑膿菌（臨床分離薬剤耐性菌株）
レジオネラ菌（浴室より検出された菌株）
3. 試験方法 上記6種類について、それぞれの菌液200 μlにつき トリノ水2 mlを添加し、よく混和後、静置する。
30秒、60秒、90秒、120秒、3分、5分、10分、20分後に菌液100 μlを培養する。
4. 菌濃度 いずれも純培養したもので、菌液は $10^5 \sim 10^6$ のものを使用する。
5. 試験結果 発育が認められた場合：+ 発育が認められない場合：-

菌液200 μl + トリノ水 2 ml （トリノ水製造直後）

	30秒	60秒	90秒	120秒	3分	5分	10分	20分
大腸菌	-	-	-	-	-	-	-	-
黄色ブドウ球菌	+	+	-	-	-	-	-	-
バチルス菌	+	+	+	+	+	+	-	-
サルモネラ菌	+	+	+	-	-	-	-	-
緑膿菌	-	-	-	-	-	-	-	-
レジオネラ菌	+	-	-	-	-	-	-	-

菌液200 μl + トリノ水 2 ml （トリノ水製造3ヶ月後）

	30秒	60秒	90秒	120秒	3分	5分	10分	20分
大腸菌	-	-	-	-	-	-	-	-
黄色ブドウ球菌	+	+	-	-	-	-	-	-
バチルス菌	+	+	+	+	+	+	+	+
サルモネラ菌	+	+	+	-	-	-	-	-
緑膿菌	-	-	-	-	-	-	-	-
レジオネラ菌	+	-	-	-	-	-	-	-

(株)日本微生物研究所

概要及び特長

アルマイト・ニッケルめっきや硫酸銅めっきには機能上重要な要素にメッキ液の攪拌があります。

しかしながら今尚現在、その攪拌機やそれによる効果については深く研究されず、他の部門に比較して技術的にまた設備的に遅れているのが現状です。

従来法では攪拌用パイプにランダムに穴をあけ、そこからエアーを基本的な根拠もなく出していますが、このマイクロ爆気法方式ではマイクロ的な気泡による、より高密度の攪拌効果が得られる為

電流密度を上げることが出来ます。

従来法によく発生する、高電流部分のヤケやコゲなどなく、より大きな効果をあげることができます。

均一なめっき厚の製品が得られます。

めっき速度の高速化が実現出来ます。

材質と形状

材料はアランダム質の砥粒を骨材とした高温焼成セラミックです。

用 途：アルマイトめっき（ニッケル浴）

硫酸銅浴、ピロリン酸浴、クロメート浴、水洗